

混合交通を観察する  
**DOCUMENT**  
series—198  
**Eye**



●観察場所／東京都目黒区鷹番2丁目付近  
●観察日／7月18日(火曜日)  
●天候／雨  
●観察時間／8:00~9:00  
●観察者／4名

歩行者と安全な間隔をとっているが、減速せずに側方を通過するクルマが多かった



●朝の通勤時間帯に歩行者の側方を通過するクルマを観察する  
**1時間に観察した438台中、歩行者の側方を徐行せず、安全な間隔もとらずに通過したクルマ184台(42.0%)**

●WHY

歩行者の側方をクルマはどのように通過しているか?

平成17年に発生した交通事故のうち、歩行者と車両が関係した事故は7万9934件。その多くは、歩行者が道路を横

●WATCHING

安全な間隔をとっても減速しないクルマ

観察場所は東京・目黒区の「学芸大駅」駅周辺。幹線道路から少し離れた地点に駅があり、周辺には住宅地が広がっている。観察時間帯の歩行者は、そのほとんどが通勤・通学と思われる会社員や学生。駅周辺の道路は比較的狭く、歩道やガードレールは設置されておらず、道路の両側(一部片側のみ)に路側帯が表示されていた。

歩行者がいる時に観察地点を通過したクルマ(四輪車)は438台。クルマが歩行者の側方を通過する際、徐行せず安全な間隔だけをとったクルマは1



歩行者の側方を通過する際、徐行せず、安全な間隔もとらないクルマ

●PROPOSE

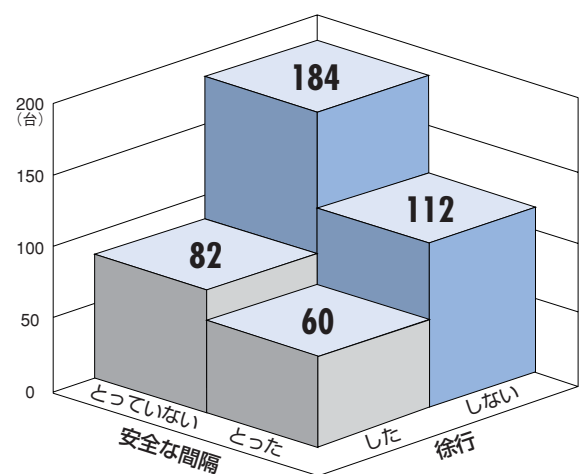
急いでいても、歩行者の側方は徐行して通過

断中に起きているが、道路を歩行中の事故も1万2293件(対面歩行中4547件・背面歩行中7746件)と少なくない。クルマは歩行者の側方を通過する時、徐行あるいは歩行者と安全な間隔をとっているのだろうか。朝の通勤時間帯に、東京都内の駅周辺の道路で観察してみた。

クルマが歩行者の側方を通過する時は、歩行者の安全を確保するため、徐行または安全な間隔をとらなければならぬと道路交通法で定められている。朝の通勤時間帯に運転しているドライバーやライダーの多くは、出動などのため、時間に追われていることが多いはずだ。駅周辺を歩く歩行者も自分が乗りたい電車で遅れないことに意識が向いているため、周囲に対する注意力が散漫になっていると考えられる。

今回の観察では、歩きながら、後方確認もせず、道路を横断する歩行者も目立った

■歩行者の側方を通過するクルマの状況(四輪車のみを観察)



●総台数438台

	徐行をした	徐行をしない
歩行者と安全な間隔をとった	60台(13.7%)	112台(25.6%)
歩行者と安全な間隔をとっていない	82台(18.7%)	184台(42.0%)

一方、歩行者はクルマの存在を意識した歩き方をすることも必要である。



後方を確認せずに道路を横断する歩行者も目立った

※徐行および安全な間隔の判断は観察者の見解による